

# グローバル社会で活躍できるリテラシー及びコンピテンシーを養成するための海外短期研修再開・実施及びその評価と改善

【担当：国際交流センター 国重 徹, エルメス デイビット, 田嶋 靖子】

## 事業概要

本学の海外短期研修は、学生のリテラシー及びコンピテンシーの向上を目指し、センタービジョンの3本柱であり、英語カリキュラムの柱となっている「スポーツ・異文化理解・語学」を有機的に融合させ国際交流センター（nifs.global）が開発したものである。当研修は単に海外で語学の研修を実施するに留まらず、現地スポーツジムでのインターンシップやビジョンを反映させたセルフツアーの企画・実施を組み込み、学生がグローバル社会で活躍する際に必要となるリテラシー及びコンピテンシーを涵養し、本学での学びのアウトプットの場としても効果が期待される。本事業では、コロナ禍で休止していたハワイ短期研修StAIH（Study Abroad and Internship in Hawaii）を再開し、シドニー（及びウーロンゴン）短期研修再開のための準備を実施した。再開にあたり、どのようなプログラム内容が実施されたかを再見、開られた成果について参加者のフィードバックや語学スコア及びPROGテストの伸長を基に評価を行う。評価を基に改善案を提示することで来年度以降の海外短期研修でより高いリテラシーとコンピテンシーを養成できる研修へと改善をしていく。



## プログラム内容

月日	プログラム内容
9/8 (木)	ハワイ到着→ワイキキ ホームステイ:ワイキキ
9/9 (金)	ホストファミリーと自由時間 ホームステイ:ワイキキ
9/10 (土)	観察と語学学習1 スターバックスで観察後、ハワイ大学の大学院生による インテンシブ語学学習、ワイキキのUFCジム見学 ホームステイ:ワイキキ
9/11 (日)	観察と語学学習2 オアフダイアモンドサーフで観察後、ハワイ大学の大学院生によるインテンシブ 語学学習、ワイキキのUFCジ ム見学 ホームステイ:ワイキキ
9/12 (月)	スカベンジャーハントによるコミュニケーション学習3 アラモアナ ショッピングセンターで実施、ワイキキのUFCジム見学 ホームステイ:ワイキキ
9/13 (火)	自由時間 (午後) ワイキキからカイルアへ移動 インターンシップ1:スタッフへの挨拶、オリエンテーション、施設見学、ガイダンス ホームステイ:ワイキキ
9/14 (水)	インターンシップ2:(午前/午後) 仕事体験、ジムプログラムの観察、 PRビデオの作成準備、顧客及びスタッフへのインタビュー ホームステイ:ワイキキ
9/15 (木)	インターンシップ3:(午前) 仕事体験、ジムプログラムの観察、PRビデオの作成準備、顧客及びスタッフへのインタビュー (午後) カイルアからワイキキへ移動 ホームステイ:ワイキキ
9/16 (金)	インターンシップのレビュー、今後のプログラムの確認、インタビューの編集及びPRビデオ作成 ホームステイ:ワイキキ
9/17 (土)	ホストファミリーと自由時間 ホームステイ:ワイキキ
9/18 (日)	文化・スポーツ活動 ・ハワイ日本文化センター ・パールハーバー ・ハワイ大学、チアリーディング (NCAA sports) セルフツアー準備 ホームステイ:ワイキキ
9/19 (月)	セルフツアー ・言語・スポーツ・文化 ・ハワイ日本文化センター ・現地文化・芸術 (ウクレレレッスン、博物館、ハワイ大学等) ホームステイ:ワイキキ
9/20 (火)	自由時間 ・チェックアウト/帰国準備 ホームステイ:ワイキキ
9/21 (水)	日本へ出発 ホームステイ先をチェックアウト
9/22 (木)	日本へ到着

## 成果

### 【リテラシー】

研修参加者Aは、本学入学時の英語力は基礎レベル(プレACEMENTテストの結果はTOEICスコア105相当)であったが、研修参加まで引率教員とマンツーマンでの英語レッスン及び、オンラインでの英会話受講を継続し、研修参加時には、自身が続けていた競技の海外遠征において海外の選手とほぼ対等に英語で会話ややりとりができるほど英語力、英語コミュニケーション能力ともかなり高くなっていった。また、オンライン英会話の講師の資格も取得した。研修をきっかけにさらに英語コミュニケーションの意欲と能力が高まり、研修後にはオンライン英会話の講師に会うため、フィリピンに単独で行くなどの活動をした。その後、カナダでワーキングホリデープログラムにエージェントを bypass、個人力のみで応募し、現在はカナダでTシャツなどの自社ブランドを立ち上げたりするなどして積極的に活動している。

参加者Bは入学時の英語力が、TOEICスコア385相当、ハワイ研修参加直前がTOEICスコア415であった。研修が大きな刺激になったようで、行く前は緊張していたが、研修が進むにつれて、驚くほど積極的に、そして自信を持って英語講師、ホストファミリーやホームステイしている他の学生、インターンシップ先のUFCジムのスタッフと英語でコミュニケーションが取れるようになっていくのが、引率教員の観察や面談からも分かった。研修後はTOEICスコア400-450レベル及び、450-495レベルの英語の授業履修可能レベル(本学での最高レベル)まで到達した。このような参加者のリテラシーの伸びが、当該研修の効果によるものだけとは言えないが、研修を挟んでリテラシーが伸びたことは確かである。

参加者は、総合格闘技ジムでインターンシップ実施中に、ジムの仕事のサポートに加え、研修の最終的なアウトカムとして、ジムの顧客やスタッフへの英語によるインタビュを含むジムのプロモーションビデオを制作した。作成したYouTube動画は以下のQRコードから視聴できる。



### 【コンピテンシー】

研修参加者AのPROGテストの経年変化における伸長度を比較したところ、コンピテンシーとして分類される対課題基礎力、対自己基礎力、対人基礎力において大幅な伸長が見られた。入学時と入学から約19カ月後に実施したテストの結果を比較すると、対課題基礎力と対自己基礎力の伸長が約14%増、対人基礎力は伸長なし(0%増)であった。それに対し、ハワイ短期研修が実施された2022年9月の期間を含む2回目の実施から約15か月経過後の伸長は、対課題基礎力と対自己基礎力が57%増、対人基礎力は72%増となった。当該研修の成果のみにより、この大幅な伸長があったと断言することは難しい。しかし、研修の担当教員による研修後の聞き取り調査の結果等を勘案すると、ハワイ短期研修が当該参加者のPROGコンピテンシーの結果に重要な影響をもたらしたと考え得る。参加者BのPROG結果についてもPROGテストが実施され次第、引き続き評価を行う。



## 評価と改善案

### 【評価】

研修参加者の観察、参加者による日誌やフィードバック、引率者との面談、PROGの結果等から、ハワイ短期研修参加により学生がグローバル社会で活躍するためのリテラシー及びコンピテンシーに係る資質を伸ばすことが出来たという結果が得られた。参加者においては研修後の学生生活、海外生活においても、十分に当該能力を活かして活躍していることから、今後も更なる能力の向上が期待される。

### 【改善案】

カイルアのUFCジムでのインターンシップは当該ジムのトレーニングマネージャーから学生インターンの受け入れも承けてもらった上で、オリエンテーション等を含めて合計4日間実施する予定であった。しかし、ハワイの総合格闘技UFCジムは、複数のジムの統括マネージャー(個々のジムのトレーニングマネージャーより上位の管理職)が管理しており、そのマネージャーのインターンは受け入れられないとの判断で、インターンシップ3日目の午後と4日目は急遽中止になった。従って、本研修プログラムの最大の強みの一つであるUFCジムでのインターンシップが現状ではハワイ短期研修においては継続が難しいと判断している。そこで、国際交流センターとしては、オーストラリアのシドニー(及びウーロンゴン)での研修実施を目指すこととし、以下に示す通り、その準備を行なった。

### 【シドニー (及びウーロンゴン) 短期研修再開のための準備】

2023年3月14日から19日までオーストラリアに滞在し、短期研修再開のために以下の準備をした。

・シドニー近郊のブラックタウンにある総合格闘技UFCジムの訪問し、マネージャーのJoash Republica氏と面談。本学学生のインターンとしての受け入れを承諾していただいた。※ハワイと異なり、オーストラリアでは統括マネージャーは存在せず、個々のジムのマネージャーの権限でインターンの受け入れを決められるため、確実に受け入れていただけることとなった。

・ウーロンゴン大学を訪問し、インターナショナル部門担当者、Global Sport Programs担当者、Support Servicesの担当者、学生代表者と面談。ウーロンゴン大学の学生によるインテンシブ語学学習、スポーツ関連の授業等への本研修参加学生の参加、もしくは、参観について、協力していただけるとの回答を得た。

以上の準備に基づき、2024年3月にオーストラリア研修を再開することに決定した。今後さらに密にUFCジム及び、ウーロンゴン大学の関係部署と連絡を取り、学生への説明会、募集、参加学生決定、事前研修等を行う予定である。ハワイ短期研修同様、学生のリテラシーやコンピテンシーが伸びることが期待できるとともに、学生や本学のグローバル化に資するシステムを構築することができると考える。